

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 瑞陵会
施設名	幼保連携型認定こども園 まるづかこども園
報告者（役職）	小瀬 恵美子（ 園長 ）
住所・連絡先	静岡県浜松市東区丸塚町 287-1
	☎ 053-465-2525
	E-mail maru@zuibun.or.jp

○タイトル（保育計画）

めざせ！こざる！

○主な助成備品

はん登棒・屋根登り

1. 保育計画策定の目的

平成 26 年 4 月にまるづか保育園として開園し、平成 29 年 4 月より幼保連携型認定こども園、まるづかこども園となりました。『元気に遊べる子を育てよう』『自己肯定感を育てよう』『人とのコミュニケーション能力を育てよう』という 3 つの柱を保育目標に掲げ、教育・保育に取り組んでいます。令和元年になり、6 年目を迎えました。

入園するまで家庭で過ごしていた子どもたちが、園に通園するようになり、広々とした空間の室内外で生活・遊びを楽しんできました。しかし、ふとした段差で転倒し、そのまま手が前に出ず、骨折や口のまわりを怪我することが多くありました。それまで体を大きく動かすことがなく、急に広々空間で過ごすことへの経験不足が見られました。自分の体を自分自身で支えられるように、体力づくりの一環として、遊びのなかに自然な形で取り入れていきたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

0.1 歳児は室内で、保育教諭との触れ合い遊びの中で、腕の力や体感を少しずつ身につけていけるように、日々取り組んでいます。

2.3.4.5 歳児は、毎日リトミック、運動遊びを多く取り入れ、足の指を十分に使い、自分の体は自分で維持できるように進めています。園庭に出て暖かい太陽の日差しを浴びて、屋根登り・はん登棒を使用しています。

初めは屋根登りでロープをしっかり握り、バランス良く自分の力で登っていき、徐々に登れる距離を伸ばしていくようにする。反対側に降りる時もゆっくり自分のペースでバラ

ンスを保って降りる（2.3.4歳児は特に保育教諭が声掛け、見守りの中で対応をしています）。

はん登棒は、園庭に出ている園児が年齢に関係なく自由に使用し、幼いうちから、はん登棒に触れる。上（空）を見上げる。実際にぶら下がってみる。地面から足を浮かせてみる。お兄さん、お姉さんが挑戦している姿を熱い眼差しで見つめる。友だちや保育教諭のサポートを受けて、実際に登ってみようとする。様々な工程を経て、頂上達成！自分の力で登りきることができるようになった子が増えてきました。

こども園では、『健康な心と体』『自立心』『協同性』『道徳性・規範意識の芽生え』『社会生活との関わり』『思考力の芽生え』『自然との関わり・生命尊重』『数量・図形・文字への関心・感覚』『言葉による伝え合い』『豊かな感性と表現』の10項目の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」があり、常に教育・保育の中でこれらを念頭に置いて計画を立てています。

屋根登り・はん登棒に挑戦していくことで、友だちとの関わりを通して全ての内容を子どもたちが感じとっていけるようになればいいなと思い、園庭に出る楽しみが、また一つ増えました。



3. その成果と評価

約1年前の2019年1月に、遊具が園庭に登場した時、その当時の年長児は一人も登れませんでした。年中児さんだった男の子が一人、スルスルっとはん登棒の頂上に到達してしまいました。その時の周りの子どもたちからの大きな歓声に囲まれ、本人の照れる顔の中に自信と達成感が感じられました。その時、憧れと嫉妬、羨望に満ちた年長児や、他の年中児の子どもたちの気持ちに火が付いたようです。上から見る友だちの様子を見てみたい気持ちが生まれ、自ら挑戦する姿が見られるようになりました。なかなか腕に力が入らない子には、屋根登りを勧め、体のバランス、腕の力をつけようと誘いかけていきました。昇りつめてもおりにすることができずにいる子もいましたが、保育教諭の助言や、友だちからの「がんばれ～できるよ」という励ましで少しずつ進歩していきました。毎日取り組むことの大切さを知らされました。

年度が変わり、年中児が年長児に、年少さんが年中さんになり、1年経った今、屋根登りは、年長児のほぼ全員ができるようになりました。年中児は、ほとんどの子ができるようになりました。難しいはん登棒が、どのくらいできるようになったか、発表の時を迎えました。結果は下記のとおりです。

遊具	2019年 3月	2019年 12月
屋根登り	2019年3月（4歳児頃・・・20名）	2019年12月（5歳児・・・20名）
	50%（20名中10名）	95%（20名中19名）
	2019年3月（3歳児頃・・・24名）	2019年12月（4歳児・・・24名）
	13%（24名中3名）	79%（24名中19名）
はん登棒	2019年3月（4歳児頃・・・20名）	2019年12月（5歳児・・・20名）
	15%（20名中3名）	70%（20名中14名）
	2019年3月（3歳児頃・・・23名）	2019年12月（4歳児・・・24名）
	0%（23名中0名）	50%（24名中12名）

まだまだ、100%にはなりませんが、今後も楽しんで取り組み、体力・握力共に鍛えていくようにしたいと考えています。

4. 今後の課題と展望

助成していただいた遊具をこれからも積極的に活動に取り入れていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の内容を、一人ひとりが感じ取ってもらいたいと思います。今後も子どもたちが自発的に使用できるように、計画性をもって取り組んでいきたいと考えます。子どもたちには、引き続き挑戦する心、最後までやり抜く力を持ち続けてもらい、多くの可愛いこざるちゃんを育てていきたいと思います。

備品購入の助成をいただき、誠にありがとうございました。

以上